

除菌装置を増産へ

フジコー 光触媒技術用いて開発

北九州



北九州市戸畑区の金属加工工業「フジコー」(萩尾寿昭社長)が光触媒技術を用いて開発した空気消臭除菌装置「富士の美風 ブルーデオ」の写真が脚光を浴びている。新型コロナウイルスによる衛生意識の高まりと、類似

のウイルスを減少させることが実証されたこととあり、注文が殺到。同社は受託生産(OEM)も含め年約5000台から20倍超の年11万台に増産することに決めた。一般家庭向け商品の販売にも傾斜を強める。

ブルーデオの新型コロナ自体への効果はまだ実証されていないが、似た構造を持つネコ腸コロナウイルス(FeCV)の不活化試験を北里環境科学センター(相模原市)に依頼。フィルターに付着した2600万個のウイルスが、光照射後4時間で50個未満となる成果を得た。萩尾社長は「長年培ってきた『浴射』技術を生かし、新型コロナウイルスと戦う社会の力になりたい」と意気込みを語る。

同社は製鉄炉のメン

テナンスや加工を主業としてきたが、鋼鉄業界の低迷の中で新事業を模索。金属加工の技術を生かして2011年に光触媒事業に本格

に反応して電子を放出し、空気中の酸素や水分と反応して有害物質を無害化する技術。同社は粉末状の酸化チタンなどの金属を800度以下で素材に

吹き付ける技術を確認し、高い消臭作用と耐久性を備えた。インフルエンザウイルスなどの滅菌効果が実証されている。

【浅野翔太郎】